

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第11号 2016年11月17日 発行

実りの秋！ 日野市民農園にて

## 浅川の水量減少の危機！ シリーズその2

日野市の貴重な財産である浅川の水量減少問題を前回のニュースレターで取り上げましたが、浅川の水辺を愛するOB会としては重要な問題と認識しており、しばらくその経過について報告したいと考えています。この問題はその後、日野市の9月定例会市議会で有賀市議会議員により一般質問の中で取り上げられ、OB会有志も傍聴に出かけました。また先月のOB会でも市議会を傍聴された方の内容報告とともに再度この問題を議論しました。今回は市議会を傍聴されたOB会員の田中さんに以下投稿して頂きました。

投稿 『水辺のある風景』は残せるのか？市議会を傍聴して

田中 徹

有賀議員の質問に下水編入問題が持ち上ってから今日に至る経過説明を求める部分はありません。当然ながら市答弁にも経過説明はありませんでした。情報を得たが対応出来なかったのでしょうか、それとも蚊帳の外だったのでしょうか。

編入後の流量減が約18%との答弁がありました。不安払拭には至りませんでした。行政は今までの経過と今後の浅川流量を調査分析し、根拠のある数値予測、対策を文書等で明らかにしてほしいと思います。八王子市との共同事業も含め雨水浸透など幾つかの浅川水量確保策が話されましたが、あくまで補助改善策であって真の解決は失われた水を戻してもらい以前の水量を回復させることです。

有賀議員が質問冒頭で『最近知った』と述べていましたが、これが市民の実情だと思います。水都日野の骨格である浅川や用水を豊富な水量で後世に引継ぐのか、寂しい浅川や用水を引き継ぐのかは今後の市民の関心、声、運動の広がりにかかっています。

## OB会有志による日野市湧水の定期測定の経過

OB会では定期的環境監視の一環で放射線測定に加え、飯島会長を中心に7月より谷仲山での“湧水”流量測定を開始しています。そこで今回はその状況について測定メンバーの一人、OB会員の原田さんからの状況報告と写真を掲載します。



谷仲山での湧水量測定風景

谷仲山湧水量調査の現状について 原田 武司

飯島会長の発案で始まった湧水量調査もすでに4回を数えました。当初はざこちなかった湧水量の測定に加え電気伝導度・COD・観察と多岐にわたる調査項目も各自が分担して手際よく行えるようになってきました。そもそも市の湧水量自動計測器を設置してある谷仲山を選んだ理由は会員のほとんどが未経験ですので自分たちの測定方法の正確度を判断するためです。ですから一日も早い市の測定結果の公表が待たれます。

かわせみ館は来年の春には東豊田地区に移転の予定です。それに伴い放射能測定箇所の見直しと新たな湧水量の測定場所の選定も進めています。それまでにさらに技量を高めるべく全員で頑張っているところです。

## OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・小倉先生受賞速報 この度、OB会アドバイザーの小倉先生が長年にわたる陸水研究への功績で、日本陸水学会からは日本陸水学会賞(田中賞)、とうきゅう環境財団からは社会貢献学術賞をめでたくダブル受賞されました。

OB会 輪読報告 9月、10月のOB会輪読は以下の項目でした。

陸水学入門 川と湖を見る・知る・探る 編集：日本陸水学会 発行：地人書館

9月 Topics19 ダムと河川堰問題に揺れる川 木曾三川 Topics20 ワドとヨシ原再生への取り組み 淀川

10月 Topics21 琵琶湖をめぐる「はしかけ」活動 Topics22 琵琶湖における農業濁水問題

発行：市民環境大学OB会